



令和7年10月17日
(独) 家畜改良センター奥羽牧場

ガイアナ、マラウイ、パキスタン、サモアより研修生を受け入れ

～令和7年度 JICA 課題別研修「SDGs に配慮した包括的な畜産振興の取り組み」～

家畜改良センター奥羽牧場（場長：菅谷^{すがや} 公平^{こうへい}）では、独立行政法人国際協力機構（JICA）からの受託により、10月20日から4名の研修生を受け入れます。

奥羽牧場は、受精卵移植等を活用した黒毛和種の効率的な改良増殖や肥育調査（現場後代検定）等に取り組んでおり、研修生は、当场で肉用牛の改良増殖と飼養管理、家畜衛生管理技術、飼料生産技術の現地研修を行う予定であり、今後自国の畜産業の発展に寄与することが期待されます。

記

研修期間：令和7年10月20日（月）～令和7年10月24日（金）

研修場所：独立行政法人家畜改良センター奥羽牧場

研修生：ガイアナ、マラウイ、パキスタン、サモア計4名（4ヶ国）

研修内容：肉用牛飼養管理、繁殖管理、家畜衛生管理、飼料生産技術

取材を希望される方は、家畜防疫の関係上、留意事項等を説明する必要がありますので、事前に下記担当者へ連絡くださいますようお願いいたします。

【問合せ先】

〒039-2567 青森県上北郡七戸町鶴児平 1

独立行政法人家畜改良センター奥羽牧場 担当者：業務課 武井^{たけい}、遠藤^{えんどう}

TEL：0176-62-3281

FAX：0176-62-3283

URL：<https://www.nlbc.go.jp/ouu/>

「日本の食卓 改良と技術で守ります」～小さなタネから大きなウシまで～

JICA 課題別研修の海外研修生に日本短角種振興の取り組み事例を紹介します。

奥羽牧場では、10月20～24日の期間に家畜改良センター本所が受託した JICA 課題別研修「SDGs に配慮した包括的な畜産振興の取り組み」の海外研修生 4 名の実習の受け入れを行います。

その中で、10月22日午後から青森県内の日本短角種振興の体制と青森市の取り組み事例を紹介します。

明治時代から青森県などの東北地方で改良増殖し、大切に育てられてきた和牛である日本短角種は、放牧適正があり青森県内でも多く飼養されてきましたが、現在飼養頭数の減少が顕著であり生産振興の更なる促進が期待されています。

日本の家畜改良増殖の過程における SDGs に配慮した包括的な畜産振興の取り組み事例であるため、海外研修生の母国での畜産振興の参考となることが大いに期待されています。

